

2021年度

学校法人
支倉学園 **ファッション文化専門学校DOREME**
DOREME INSTITUTE OF FASHION AND CULTURE

学校評価—学校関係者評価—

学校関係者評価委員会

開催日時:令和4年6月1日(水) 9:30~11:00

場所:本校理事長室

参加委員 ※敬称略 50音順

相澤 和子 株式会社 AZOTH 役員

相田 志 &A color office 代表

小幡 賢二 有限会社コラボレーション・マル 代表取締役

佐竹 恵子 ファッション文化専門学校 DOREME 特別顧問

針生 庸一 有限会社針惣 代表取締役

古川 直磨 古川直磨公認会計士事務所 代表

山口 文彦 有限会社 ONEanother 代表取締役

同席者

菅野 敦子 ファッション文化専門学校 DOREME 校長

菅野 麻那 学校法人支倉学園 法人本部長

学校関係者評価委員会からの主なご意見・対応等

(1)教育理念・目標

【意見】

- ・学科ごとの特色をより色濃くした方が、入学希望者に分かりやすいのではないかと。
- ・学生の率直な意見を聞く場が必要ではないかと。アンケートの実施を推奨。
- ・校名が分かりづらい。
- ・ファッションショーが実施できなかったことが悔やまれる。

【対応】

- ・学科ごとのカリキュラム等の見直し、強みの把握。
- ・学生・保護者アンケートの実施。
- ・校名変更については来年度中に検討、改善を予定。

(2)学校運営

【意見】

- ・教職員が一丸となって目標に向かうため、まずは改めて従業員満足度の向上を進めた方が良い。
- ・アナログのシステムが多く、効率化が図れないため、必要など所に手が届いていないのではないかと。
- ・新しい職員を更に採用するべき。特に若い人財が必要と考える。

【対応】

- ・人事評価制度、処遇改善、就業規則の見直し、こまめな面談の実施。
- ・勤怠管理システムの導入検討。
- ・次年度にも1名採用予定、その者の育成に尽力する。

(3)教育活動

【意見】

- ・カリキュラムの見直しが必要。
- ・今の若者に合った内容なのか、魅力的な内容なのか、授業ごとに被っている内容はないか等、客観的視点から常勤、非常勤に関係なく授業査定が必要。特に非常勤の講師との面談や授業見学を実施し、改善点、力を入れる箇所のアドバイス等を前向きに行った方が良い。
- ・各授業の実施回数の基準値を作成する必要がある。行事やセミナー等で休講になった授業への振り替えの基準がなく、年間予定が立てにくい。特に検定などの授業に関しては、しっかりと回数確保してほしい。
- ・出席率の締め切り日や評価提出日が確定され、より適正な評価が行えるようになった。
- ・コンテストへの受賞者が少ないので、もっと力を入れた方が良い。でも今年度増加していたので継続してほしい。
- ・キャリア教育が素晴らしい。コロナ禍でも個別に企業を招いて説明会を行っている。

【対応】

- ・カリキュラムは改めて改善委員会を作り、検討を重ねる。
- ・校長が中心となり授業査定の実施と全教職員との面談を行う。改めて長年勤めている講師評価も行い、契約条件等もこまめに見直しをすることで、協力体制を確立していく。
- ・各授業の基準値についてはしっかり見直しをし、検討する。また、講師と担当教員の面談もこまめに実施するよう、指示する。
- ・コンテストへの取組を強化し、丁寧なアドバイスと指導を重ね、入賞者を増やす。

(4)学修成果

【意見】

- ・コロナ禍でも就職率が100%とは素晴らしい。今後も続けてほしい。
- ・入学者が増加したことは喜ばしいが、これを継続してほしい。
- ・もともと不登校、メンタルの不調が気になる学生に対しての対処策、代替え案、サポートカリキュラムなどの検討もする予定。出席率だけを重視するのではなく、就学意欲を認めて支援する必要がある。
- ・入学前面談は必要。学科とのミスマッチがあると退学に繋がる。オープンキャンパスに複数回参加させるなど、工夫すると良いのでは。
- ・学科によって学生の学習意欲の落差が激しい。担当の問題なのか、学生の問題なのかはわからないが、サポートを強化するべき。
- ・出席率の低下が気になる。

【対応】

- ・学生個人個人に合った就職先の提案、サポートを継続していく。
- ・入学生増加対策は継続して取組み、学校全体で取り組んでいく。
- ・入学前面談に関しても、広報担当者だけでなく学科担当も協力して検討していく。
- ・カリキュラムの見直しを行い、学生が自然と登校できる環境をつくる。

(5) 学生支援

【意見】

- ・前項同様、やはり不登校気味の学生のケア方法を検討すべき。学校に来ない→退学の負のスパイラルを払拭してほしい。
- ・経済的に苦しい学生も多い。3年生への進学率を上げるために、授業料減免の見直しも必要ではないか。
- ・教職員のメンタルヘルス研修は是非実施してほしい。

【対応】

- ・不登校の学生は転科や遠隔授業も視野にいれ、卒業できるように工夫する。

(6) 教育環境

【意見】

- ・コピーの手間が多い。DX化を進めて、データで学生とやり取りできるようにしてほしい。

【対応】

- ・ご意見の通り。DX化は急務と考える。2022年度にインターネット環境整備が確定しているため、タブレットの導入等計画的に検討していく。

(7) 学生の受入れ募集

【意見】

- SNS や行事、学外活動等頑張っている感じはあるが、実際他校に流れてしまっている。その原因を究明すること、そして対処していくことが必要なのは明らか。立地や設備面で劣る点は、やはり人海戦術で乗り越えなければならないのではないだろうか。全教職員の協力が必要だと思う。
- ・HPの不便さが目立つ。映像を組み込んだり、もっとファッショナブルなものにした方がよいのでは。
 - ・クリエイター学科の人数が増加したことが良かった。上級学科の学生としてしっかり学業に取り組みつつ、学校にも貢献していた。今後も魅力をアピールしてほしい。

【対応】

- ・ご意見の通り。広報担当者だけでなく、全職員で活気あるオープンキャンパスを目指さねばならない。HPに関しても、写真の入替だけでも行い、フレッシュさを出すようにする。

(8) 財務

【意見】

- ・建物の老朽化が目立つ為、計画的な修繕計画を立てた方がよい。壊れてから直すのではなく、その前に対処してほしい。

(9) 法令等の遵守

【意見】

- ・個人情報の保護はより一層気を付けた方がよい

【対応】

- ・個人情報保護や学生の肖像権などについては、入学時に書面で確認をする。SNSなども頻繁に更新するため、写真撮影等にも気を配る様にする。
- ・著作権はセミナーに参加し現在取り組んでいる。

(10) 社会貢献・地域貢献

【意見】

・SDGs をテーマにしたポップアップショップが素晴らしかった。作る責任、使う責任はファッション業界において必須テーマだと考えるので、今後も取り組んでほしい。より多くの人に周知すべきだったと思う。

(11) 国際交流

【意見】

特にないが、情報収集が必要。オンラインで交流できる時代なので、取り入れても良いのではないかな。